

# Patient Information Sheet (Japanese) 患者向け情報シート

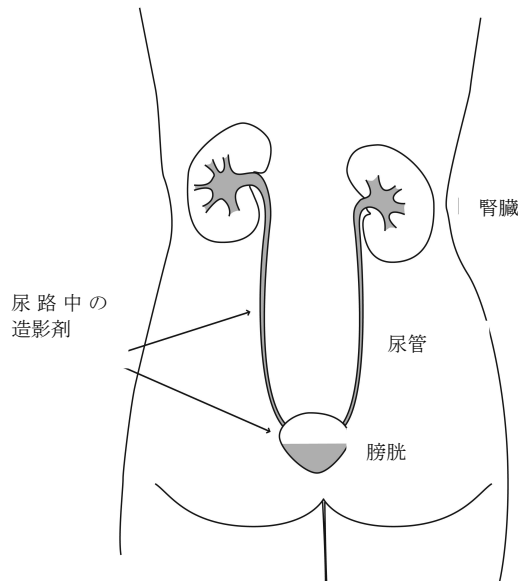
## IVP - Intravenous Pyelogram 静脈性腎盂造影検査 (IVP)

### 1. 静脈性腎盂造影検査とは何ですか？

静脈性腎盂造影検査 (IVP) は尿路 (腎臓、尿管、膀胱) を観察するために X 線とヨード系「造影剤」を使用します。IVP では腎臓の形を確認し、大きさと内部構造を調べます。

また、この検査で尿路の機能が正常かどうかを調べることもできます。

ヨード系造影剤とその使用に伴うリスクに関するより詳しい情報については、**ヨード系造影剤の患者向け情報シート**をお読みください (この情報シートを持っていない場合は、頼んで入手してください)。



IVP - Herston Multi Media Unit, RBWH, 2009

### 2. 不快感はありますか、麻酔は必要ですか？

IVP は痛みを伴わない手順で、麻酔は不要です。

IVP 検査に使用する造影剤で尿に色がついたり、排尿時に不快感を起すことはありません。

### 3. 検査前の準備

医療画像科が検査前の準備方法を患者に指示します。

- 腸検査準備キット。正確で完全な検査を行うため、事前に腸の中を完全に空にしなければなりません。確実に指示に従ってください。もし間違えた場合は再検査を予約しなければならないことがあります。
- 妊娠中または妊娠の可能性がある、もしくは授乳中の場合はスタッフにお知らせ願います。

### 4. 検査中

検査開始前に膀胱を空にするよう指示されることがあります。

その後、腹部の X 線撮影をしてから造影剤を注射します。

造影剤を注入できるようにするため、細い針 (静脈カニューレ) を患者の腕から静脈へ刺します。

造影剤の注射後、一定間隔で X 線の連続撮影を行います。

造影剤の流れを遅くするために、患者の腹部に圧縮ベルトをつけることがあります。

最後の画像を撮影する前に膀胱を空にするよう指示されることがあります。

検査終了時に静脈カニューレを外します。

### 5. この特定の検査に伴うリスクは何ですか？

この検査では以下を含むリスクと合併症を伴うことがありますが、それらに限定されるわけではありません。**よくあるリスクと合併症は以下を含みます。**

- 静脈カニューレによる軽い痛み、あざ、および/または感染。これは抗生物質による治療が必要になることがあります。

**たまにあるリスクと合併症は以下を含みます。**

- 注射した造影剤が血管外に漏れ、皮下から組織へ入ることがあり、このため治療が必要になることがあります。極めてまれなケースとして、もし皮膚が損傷した場合はさらに手術による処置が必要になることがあります。
- 医学的および/または技術的理由のため検査が不可能なことがあります。

**まれにあるリスクと合併症は以下を含みます。**

- X 線透視による生涯のがんリスク増大。
- この検査の結果として死亡することは極めてまれです。

### 6. 病院を出た後の注意点は何か？

もし気分が悪くなった場合は、もよりの救急救命センターまたは一般開業医へ行ってください。

### 医師/医療関係者と相談する事柄のメモ:

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....



# Patient Information Sheet (Japanese) 患者向け情報シート Iodinated Contrast ヨード系造影剤

## 1. ヨード系造影剤とは何ですか？

医師から受けるように指示された医療画像検査では、ヨード系「造影剤」（以前はX線染料と呼ばれた）を使用します。造影剤はヨードを含む無色の液体です。造影剤はX線透視で臓器がよりはっきりと見えるようにするため血管へ注射されます。造影剤は染料ではなく、体内を染めるものではありません。患者の診断に役立つ必須情報を全て得られるようにするため、医師はMRI造影剤を使用する必要があります。

この情報シートは、予約をした検査の情報シートと一緒に必ず読んでください（この情報シートを持っていない場合は、頼んで入手してください）。

## 2. 検査中

造影剤が注射されると以下のように感じる場合があります。

- 体中がとても熱い、つまり「灼熱感」がする、また尿が出るような感じがすることがありますが、それは感覚だけで実際に尿が出ることはありません。
- また「金属のような」味または匂いがすることもあります。通常これは1分もしないうちに止まります。

## 3. 検査後

造影剤を体外へ排出させるために、検査後コップ2〜4杯の水を飲むことをお勧めします。

造影剤は普通の活動を行う能力に影響するものではなく、通常は普段通りに生活することができます。

## 4. 注意事項

患者の中には造影剤が適していない方もいるため、投与前にいくつかの質問をします。患者の回答によってスタッフは何らかのリスク要素があるかどうかを確認することができます。

- 妊娠中または妊娠の可能性がある、もしくは授乳中の場合はスタッフにお知らせ願います。

### 腎機能

- 造影剤は腎臓が尿を出すことにより、血液中から排出されます。腎機能が正常な方の場合には簡単に体外へ出されます。
- 腎機能が低下している方（腎障害がある方）に造影剤を投与すると、腎機能をより低下させ、さらに腎臓の正常機能が停止する（急性腎不全）ことがあります。
- 患者は腎機能のレベルを確認するために簡単な血液検査を受けるよう指示されることがあります。

### 糖尿病治療薬との相互作用 - メトホルミン

（その他の薬剤名：アバンドamet、ダイアベックス、ダイアホルミン、フォーメット、グルコヘキサール、グ

ルコメット、グルコファージ、グルコバンス、メトフオーベル）

もし造影剤によって腎機能が低下した場合、腎臓はメトホルミンを体内から排出できないことがあります。造影剤を使用する時はメトホルミンの服用を短期間中止する方が安全です。メトホルミンの服用を中止する時期と再開しても安全な時期についてはスタッフがお知らせします。

メトホルミンの服用中止を指示された場合は、糖尿病の状態を観察するためにかかりつけの一般開業医へ連絡してください。

## 5. ヨード系造影剤に伴うリスクは何ですか？

造影剤の注射は以下を含むリスクと合併症を伴うことがあります。それらに限定されるわけではありません。

**よくあるリスクと合併症は以下を含みます。**

- よくある既知のリスクはありません。

**たまにあるリスクと合併症は以下を含みます。**

- 注射した造影剤が血管外に漏れ、皮下から組織へ入ることがあり、このため治療が必要になることがあります。極めてまれなケースとして、もし皮膚が損傷した場合はさらに手術による処置が必要になることがあります。
- 急性腎不全は腎臓の片方または両方の機能が急に停止した時に起こり、これが数日間から数週間続くことがあります。腎機能が前のレベルに回復するまで長期間かかることもあり、この間に血液透析を行う必要があることがあります。腎臓の機能が永久に失われてしまうリスクがあります。このリスクを減らすために、可能な限り少ない量の造影剤を投与します。
- 医学的および/または技術的理由のため注射が不可能なことがあります。

**まれにあるリスクと合併症は以下を含みます。**

- アレルギー反応は最初の1時間以内に発生し、大半は最初の5分間に起こります。注射後最長1週間まで経ってから反応が起こることが知られています。

注：局用ヨードおよび/または魚介類のアレルギーがあっても、必ずヨード系造影剤にアレルギー反応を起こすとは限りません。

軽度 - じんましん、発汗、くしゃみ、せき、吐き気  
中等度 - 広範囲のじんましん、頭痛、顔の腫れ、嘔吐、息切れ

重度 - 重度の反応はまれですが次を含みます。

生命に危険を及ぼす心悸亢進、大幅な血圧低下、気道の腫れ、けいれん、および/または心停止

- ヨード系造影剤が原因で死亡することは極めてまれです。



**6. 病院を出た後の注意点は何か？**

もし気分が悪くなった場合は、もよりの救急救命センターまたは一般開業医へ行ってください。



**Queensland  
Government**

**PATIENT INFORMATION SHEET ONLY**

**NO DOCUMENTED CONSENT REQUIRED**

*Unless patient is renal impaired*

If a documented consent is required  
Interpreter Services *must* be accessed